



CONTENTS

オランダ大使公邸の庭園と「ジャクリーン・ガーデン」が一般公開されました
 2011年 ホーム スイート バルブ (HSB) プロジェクトを振り返って かねとういおさお氏
 アメリカ発 オンライン フラワーショップ サクセスストーリー
 球根命名シリーズ 画家ゴッホのチューリップとポーランド元大統領ワレサ氏のチューリップ
 球根の歴史シリーズ 球根切り花 VS 球根
 IBCのPOS マテリアル(今秋の球根ドライセールス用など)がご注文いただけます
 アメリカ・ロングウッドガーデンで行われるユリのイベント「Lilytopia2011」開催近づく
 社団法人日本花き球根輸出入協会(JFTA)主催による『オランダ研修旅行』近づく
 東品川海上公園(東京・品川区)で「みどりと花のフェスティバル」が行われました
 中村農園 ゆりフェスタ2011 今年も460品目のゆりを一斉に開花展示

CONTENTS

オランダ大使公邸の庭園と「ジャクリーン・ガーデン」が一般公開されました

2011年4月8日(金)と4月9日(土)の二日間、ドゥ・ヘーア大使公邸の庭が一般公開されました。お天気にも恵まれ、たくさんのお客様が満開のチューリップに迎えられました。とてもよい一般公開となったようです。



2011年 ホーム スイート バルブ (HSB) プロジェクトを振り返って かねとういおさお氏



HSBは2010年9月に生産者とIBCの共同プロジェクトとして始めました。出荷市場の協賛のもと、ヨーロッパの事例に習いながら商品パッケージから流通デザインまで、試行錯誤しながらその都度調整し、仲卸店頭を中心にするという限定的な取り扱いでシーズンを迎えました。

12月から2月まで協賛市場、協力仲卸、専門店にて精力的にプロモーションを展開しました。

その中でコンセプト認知のため「花芽付き球根」や「Level 1.2.3」などの新しいことばを使ったことは、春の球根花に一層の理解を深めてもらえたのではないのでしょうか。



仲卸各社のアンケートによると様子見の1月から始まって2月まではよく売れたようですが、3月になると動きは落ち着き、卒業シーズン需要を期待する声もありましたが、それを待つ事なく震災によりシーズンを終えてしまいました。ブランドデザインだけでなく生産技術を含めまだまだ改善しなければいけない点は多くありました。

しかしながら、プロジェクトに手応えを感じた生産者は今シーズンの反省を踏まえて来シーズンも進化した HSB を展開したいと前向きに話しております。どのような展開になるか来シーズンの HSB を期待したいと思います。

アメリカ発 オンライン フラワーショップ サクセスストーリー



元々はオランダ人で、アメリカ在住約30年になる エイブ ワインペルレ氏の インターネットを駆使したウェブショップの成功例について紹介する。ワインペルレ氏の会社は現在、年商6億5千万ドル(650×100万ドル)、1000人以上のスタッフを抱える企業に成長している。そのマーケティングの秘訣は、なんといっても消費者調査にあるという話である。

このエイブ氏、もともとは花の知識皆無であったが、たまたまフラワーショップのオーナーになったことが事の始まり。1998年という、E-Bay、Amazonといったインターネット上のウェブショップの創成期に、オンラインでフラワーショップをやってみたら、とインスピレーションがひらめいたという。単にアイデア倒れにならないように、ターゲットは年商5百万ドルと、成功することを念頭にスタートした。技術面のバックアップとして、IT関係に詳しい人とパートナーを組んで発足した。経過は好調で、立ち上げ後5年以内に年商1億7千5百万ドル(175×100万ドル)そして現在ではなんと年商6億5千万ドル(650×100万ドル)というビッグサクセスを手中におさめた。



このインターネットショップ、その名も プロフラワーズ www.proflowers.com という。スタート時は品揃え1品というのが特徴的。12本のレッドローズの花束のみの勝負で、値段は29.99ドルと、当時の小売店での一般定価60ドルに対抗した。また特典として、当時はまだ珍しかった日持ち保証7日を付け加えた。

現在では1000人を超えるスタッフの核に、消費者リサーチ専門者8人がいる。その他、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディア担当として4人がいるのが特徴。そしてクオリティ部門、オンラインショップに欠かせない写真素材を担当する専門フォトスタジオがある。

サイトのビジター数をみると、1日のビジターは250,000人、そのうち25,000人からオーダーが入るといふ具合である。母の日などのピーク時には30,000件ものオーダーが入ることもあり、このアクセス量でもパンクしない技術バックアップも重要なポイントという。そのためにもICT(情報コミュニケーション技術の)部門では、スタッフ150人が24時間シフトでつめている。顧客から入るEメールには1時間



以内にレスポンスすることがモットーで、この E メール対応部門は、なんとインドにあるという。まさに世界を網羅するウェブショップといえよう。

顧客の満足度は 99.9%と胸をはる同社であるが、「クライアントを知れ」というモットーのもとに、消費者リサーチを怠らない。前述の、サイトへのビジターの 10%が実際に購入するという数字からも、「では、なぜ他のビジターは買わなかったのか」という基本的な疑問に立ち戻り、常にクライアントの要望を調べることを重視しているという。

同社で扱われている花の 60%は南米コロンビアとエクアドル産。チューリップは北米産という。創始者がオランダ人なのに、どうして花の国オランダの花を使わないのか、という疑問にも明確な答えが用意されている。輸送時間が長く、輸送費用が高い。ドルレートも考慮すると商売にはならないとのこと。他に、タイやケニア産の花も取り扱っている。

ピーク時にはなんとこのプロフラワーズ社、自社専用チャーター機も 20 機を駆使するという。全世界からのオーダーをさばき、24 時間以内発送するために、FedEx、UPS 社と協力関係にあるという。

そんな同社が切り花ブーケに続き、鉢物に目をつけたとしても不思議ではない。その名ももちろんプロプランツ www.proplants.com という販売サイトも発足した。3 年以内に 2 億 5 千万ドルが目標という。

これだけのサクセスストーリーをものにした エイブ氏も 元はといえばオランダ人。最後にオランダでのオンラインフラワーショップの可能性と展望を聞いた。

「1600 万人という人口。その上、ありとあらゆる街角にフラワーショップがあるお国である。まあ、本格的ビジネスにはならないでしょう。」とのことである。

球根命名シリーズ 画家ゴッホのチューリップとポーランド元大統領ワレサ氏のチューリップ

画家ゴッホのチューリップ

世界的に有名な画家、フィンセント・ファン・ゴッホは、彼の死後 120 年を経て自らの名を冠したチューリップを贈られました。

3 月 21 日月曜日の午後、ゴッホ美術館ディレクターのアクセル・ルガー氏は、この特別なチューリップにゴッホの名前を付けました。

球根の育種を手掛けたのは、オランダ ブリーザンドの J.S ペニング・デ・ブリット社。「フィンセント・ファン・ゴッホ」は、素敵な赤茶色でフリンジタイプ、花が咲くと高さがおよそ 50~60 cm になります。J.S ペニング・デ・ブリット社によると切花栽培用としてよりガーデニング用（ドライセール用）として大変優れた品種だそうです。

この命名は、ゴッホ美術館で行われる「ファン・ゴッホ・イン・ブルーム（花開くファン・ゴッホ）展」のオープニングに合わせてキューケンホフ公園との共同企画として行われました。

「フィンセント・ファン・ゴッホ」の球根は、今年の秋に、ゴッホ美術館のミュージアムショップで発売される予定です。

ワレサ元ポーランド大統領のチューリップ

ポーランドの元大統領レフ・ワレサ氏は、2 月 11 日にチューリップ「レフ・ワレサ」を本人が自ら命名しまし



た。命名のセレモニーは、2011年2月12日、13日の週末に行われたフラワーショーの期間中にポーランドの都市グダニスクで開催されました。レフ・ワレサ氏は、アメリカに滞在中であったため、出席することはできませんでしたが、代わりに彼の妻が、グダニスクの副市長とセレモニーに出席しました。

この写真は、新しいチューリップ「レフ・ワレサ」と一緒に写っているレフ・ワレサ氏。自分の名が付いた花を見ているところです。写真は2011年2月23日にグダニスクにあるご本人の事務所で撮影されました。「レフ・ワレサ」は、チューリップ「カンフー」と「リディア」を交配し、1998年に見いだされた花で、オランダの育種・生産会社であるマラックス・チューリップ VOF 社によって生み出されました。一重で、花弁の先端に白い幅広の斑が入った赤いチューリップです。この色は、ポーランドの国を表す白と赤と同じ取り合わせになっています。



ビジネス面では、2012年に主にポーランドを中心に販売されます。また、2012年から13年にかけて数はあまり多くはありませんが、他の国でも入手できるようになる予定です。球根の数が増えることが期待されていますが、キューケンホフ公園で栽培されている分を含めても、現在、この地球上に800キログラムの球根しか存在していないのです。

「レフ・ワレサ」は、切り花栽培用に促成栽培もできますし、ガーデン用としてドライセールすることもできます。試験栽培では、特に水耕栽培でとてもよい結果を得ています。

球根の歴史シリーズ 球根切り花 VS 球根

世界に名高いオランダの球根。その歴史も長く、興味深いテーマも多い。今回はオランダの球根歴史のなかから、120年以上も続く論争テーマである「球根切り花 VS 球根」をお届けします。

キリスト教徒にとっては、冬のクリスマスと並んで大事な行事としてあるのが、新しい生命、命の復活を祝うイースター、復活祭。これは毎年日付が変わるものの、春にあたります。

年代は遡ること1881年。この年のイースターは4月17日で、ちょうどヒアシンスの開花シーズンまっただ中にあたりました。天候の状況も良く、球根生産者は採花に精を出していました。せっかく切ったこのみごとな花を、蒸気船でロンドンの花市場に大量出荷したことから話は始まります。ロンドンに大量に入荷したオランダ産のヒアシンスの切り花は、現地の切り花生産者が出荷した花と競合してしまい、オランダから球根の球を購入した現地の切り花生産者の大不評をかうことになりました。また特製の木箱につ



めて毎日大量に出荷したものの、市場に溢れてしまった花は元手も取れないほどの値崩れをおこしてしまったのです。

その苦い経験をもとに1882年には、100人ほどのメンバーの球根組合AKVは、一般大会のもと、次のような規制を取りまとめました。【球根生産者による、ヒアシンス、チューリップ、スイセン、アネモネ、ランキユラス、グラジオラスの切り花の販売を禁止。ただし5kg以下のサンプル供給とフラワーショーなどの展示会用出展は例外とする。】多勢の賛成のもと、



メンバーは同意する旨の署名を行いました。

しかし、1887年には7,000箱を超える切り花ヒアシンズが、またもやロンドンに出荷される「違反」事例が発生し、1889年には120名ものメンバーの脱会や、組合の部門崩れなどが起きました。

1894年、球根主要産地でもあるヒレゴムにある部会では、新たに委員会を設立。一致団結のスローガンのもと、球根切り花の輸出規制に乗り出しました。しかし、その動きも年とともに衰え、1912年の春、イースターが4月7日と、またもやヒアシンズの採花シーズンに重なったことをきっかけに、球根切り花の輸出と、球根の球販売との確執が悪化することになります。特にイギリスやドイツといった球根の球の出荷先である国からの文句が噴出。1914年になって、ようやく球根輸出業者とヒアシンズ切り花を出荷する生産者との間で約束が取り決められました。主な内容は3月1日以降のヒアシンズ切り花の輸出を禁止するもので、その後、他の球根切り花でも同様の契約書が作られることになりました。



1952年、あくまでも上記契約の保持を進める業者の団体である園芸評議会と、自由市場の概念をかかげたヨーロッパ市場との間で意見の相違が表面化し、事態は悪化しました。ようやく1982年に入って、「球根生産者が自分で切り花を直接輸出販売することはできないが、切り花輸出業者に卸した上で流通経路に乗ることは可」という苦肉の策を生み出しました。この「約束事」は今でも尾を引いています。オランダから球根を輸入して切り花を栽培しているデンマークでは、最近(2008年)でも、オランダからのオランダ産チューリップ切り花の輸入があり、デンマークのチューリップ切り花生産者からは、栽培者にとっては致命的な問題である、との不満が出されています。

以上のようにざっと127年間の間に様々な展開はあるものの、この「球根切り花 VS 球根」は不朽の抗争テーマであるようです。(Bloemenbollen Visie 25 sep. 2008 から抜粋要約)

IBCのPOSマテリアル(今秋の球根ドライセールス用など)がご注文いただけます



IBCのサイトのピクチャーサービスから内容をご覧ください。IBCサイトプロフェッショナルのページからウェブショップへどうぞ!

注文は5月1日までですのでお急ぎください!

<http://video.bulbsonline.org/emag/Salesfolder2011/flash.html>

アメリカ・ロングウッドガーデンで行われるユリのイベント「Lilytopia2011」開催近づく

2月号でもお知らせしましたアメリカ・ペンシルバニア州ケネットスクエアにあるロングウッドガーデンで「リリトピア 2011」が開催されます。会期は5月20日から30日の10日間。今年もロングウッドガーデンの西温室が息をのむようなユリの楽園に変わります。

オランダの育種会社がつくりだした最高のユリが1万本、ヨーロッパの最新のトレンドが見られます。デザインするのは、昨年と同じくオランダのフラワーデザイナー、ドリーファンデンベルグさんです。

<http://www.facebook.com/album.php?aid=182056&id=640401192&l=f80a2f127b>



社団法人日本花き球根輸出入協会（JFTA）主催による『オランダ研修旅行』



2月号でもお伝えした「ダッチリリーデー」に合わせて企画された上質なスペシャルツアーの締め切り間近です。日本のユリの最高のエキスパートと一緒に厳選されたコースで種苗会社のハウスを回ります。

***テーマ：** 新品種・新栽培技術・リーマンショック以降のオランダ百合切花農家の経営の変化・市場流通の変化などの調査をする輸入業者の仕事を理解していく。

***日程：** 2011年5月22日（日）出発～5月28日（土）帰国 5泊7日

* 旅行費用：345,000円 * お問い合わせ先 日新航空サービス株式会社 横浜支店
担当：岡本尚 TEL 045-671-6332 FAX 045-671-6337

東品川海上公園（東京・品川区）で「みどりと花のフェスティバル」が行われました



4月16日（土）、17日（日）東京・品川区の東品川海上公園で「みどりと花のフェスティバル」が行われました。春を迎えた公園ではチューリップが満開！富山とオランダ生まれの素敵なパステルカラーの花壇たちが来場者を出迎え。ガーデンデザイナー奥峰子さんが「ジャクリン・スタイル」に忘れな草を合わせました。子ども達の人気はミッフィー花壇。このほか折り紙や押し花、チューリップ染め、園芸講座、苗販売、チューリップ人気投票など・・・いろいろ楽しい企画がありました。IBCは、このイベントに協力しました。 <http://kaijyoukouen.blog105.fc2.com/>

中村農園 ゆりフェスタ 2011 今年も 460 品目のゆりを一斉に開花展示

第5回ゆりフェスタ 2011in 中村農園（高知市）6月1日（水）～5日（日）午前10時から午後3時まで ゴトウ花店 蔦谷剛光氏、大森花卉 桜庭清栄氏、デザイナー 佐々木久満氏らがゲストで講演・デモを行う予定。 <http://www.nfb.co.jp/main.html>



桜の花も北へ北へ。花に力をもらいながら、ゆっくりと着実に日常を取り戻していけたら、と。毎日ていねいに。

オランダ国際球根協会ニュースレター第025号 2011年4月号 発行：オランダ国際球根協会

HP：<http://www.kyukon.org/> メールアドレス ibc@aurorajp.com